

教育目標

自ら学ぶ生徒
 自他を思いやる生徒
 健康でたくましい生徒

学校だより

ひらく



第16号

平成27年10月 6日発行

須賀川市立第三中学校

TEL 73-2377

発行責任者：校長 高崎則行

大会前の成長が明暗を分けた？ 中体連新人大会

鍵は、校内での「切磋琢磨」と「一体感」か？

2年生を中心とした新チームで挑む中体連岩瀬支部新人総合体育大会が、9月29日(火)、30日(水)の2日間にわたって開催され、団体・個人各優勝1をはじめ、本校選手も大いに健闘しました。

猛暑・酷暑の夏休みの練習を乗り切り、新学期以降の練習試合・協会主催の大会で課題の解消を図って臨んだ今回の大会です。いざ、新人大会のふたを開けてみると、本校も、また他校の選手もわずか1ヶ月前に行われた協会主催の大会時に比べて成長の跡がよくうかがえることに驚かされます。顧問の話や話を聞くと、もっと頑張れたのではないかという部もあれば、こんなに頑張れるとは思わなかったという部もあり、様々です。しかし、どの学校も頑張っている最中ですから、大会前の成長の度合いが明暗を分けたような気がします。特に、互いに切磋琢磨しながらも、一体感を高めることができたチームはいい結果が出たようです。

今大会では、私の中でのファインプレー賞は、卓球部にあげたいと思います。女子の試合中に、男子部員たちが「ここ1本、集中ー」とか、「あと2本、返せー」など、試合の局面を考えながら一人一人が本気で応援している姿は、見ていて清々しいものでした。次点はテニス部です。全身で喜びを表現しながら応援する女子の姿は、本当に別嬪さんに見えました。男子も徐々に盛り上がり、決勝に進んだ黒津・熊谷ペアを応援する時にはすごく一体感がありました。

選手壮行会では、「思い切らば(切に思はば)必ず遂ぐる」という言葉を贈りました。この言葉に、私(校長)の本音が見えるでしょうか。本気で達成したいと思ったら達成できないことはないという信念がほしい。そういう信念をもって、もっと入魂の練習をしてほしいという思いです。実はちょっと物足りなかったのですね。

今大会の経験を生かして、来年の中体連に向けて切磋琢磨を期待します。必ずできると信じています。そして、来年の岩瀬地区大会は通過点にしてほしいと、保護者の皆さんと願いたいと思います。



成績一覧

軟式野球：2回戦敗退

バスケットボール

男子：第3位

女子：第3位

バレーボール女子：予選リーグ敗退

サッカー：予選リーグ3位 敗退

ソフトテニス

団体男子：予選リーグ3位 敗退

〃 女子：優勝

個人男子：第2位

黒津 悠斗・熊谷 一億組

〃 女子：第2位

名古屋 愛美・伊丹 美杜組

〃 第3位

渡邊 咲希・齋藤 里奈組

〃 第5位

秋山 優奈・和泉 那雅組

バドミントン男子

団体：第3位

個人シングルス：ベスト8

陰山 翔 石川 幹太 山田 大生

個人ダブルス：ベスト8

林 育 汰・塩田 竜也組

卓球

団体男子：

決勝トーナメント1回戦敗退

〃 女子：第3位

個人シングルス女子：

優勝 成田 岬

柔道

団体男子：第3位

個人

優勝 武田 匠 阿部 萌花

第2位 佐藤 友弥 後藤 広輝

第3位 増賀 由輝



校内文化祭まで 1 週間

盛り上がる3年生 盛り上げれ3年生

朝の学活の時間の前から、歌声が流れてきます。しかも校舎内からではなく、3年生の教室の窓からあふれ出て、朝日田の住宅街の方から跳ね返って校長室まで流れ込んでくるのです。先週からこのような爽やかな朝が始まっています。先々週の土曜日には、文化祭の準備のために登校している生徒の音が自転車置き場までこぼれてきていました。

中学校生活最後の文化祭を最高の思い出にするため、3年生は全力で盛り上げようとしています。そして、その姿が下級生を引っ張り上げる原動力にもなり、1、2年生も寸暇を惜しんで練習するようになってきました。

しかし、気になるのは遅刻となる時刻すれすれに登校してくる生徒が少ないことです。

どの学級担任も、全生徒が練習に協力し、クラスが一体感を味わう喜びに浸ってくれることを一番に願っています。また、朝の自主練習に参加している生徒も参加できない生徒も、中学生ともなれば、全員が練習に参加して心をついにできたらどんなにうれしいかは想像できる年齢です。

自分の心のドアを開け、盛り上げようと頑張っている友達の側に飛び込めば、新しい喜びの世界が味わえます。他の人と一体になった喜びを味わった人、そういう喜びを味わう方法を知っている人は、それぞれの進路先の集団生活でも、そういう喜びを創造することができる人です。

特に3年生にとっては、これからは「中学校生活最後の〜」の連続です。教師や友達とのこうした「小さなキズナ」を大切にすることが、残された学校生活を大切にすることだと思います。



ただ、「おいしい!」の音が聞きたくて



9月9日(水)、調理員の記録にはこのように記されていました。

「今日のごぼうサラダは、マヨネーズの味も手伝ってか、生徒に人気の和え物です。千切りのごぼうを下ゆでして薄く醤油で下味をつけ、水で洗い熱を冷ましなが、他の材料と一緒にもう一度味付けをして、配食をするという、実はとても手間のかかる献立なのです。炒め煮も切った大根とこんにゃくを下ゆでしてから調理しました。多少手間はかかっても「おいしい!」という声を聞けたら、それだけで満足です。」

生徒の音が、調理員にとっては元気・やる気の源です。

25日(金)「お月見献立」のお月見団子のタレも、手作り感を出したいがために給食室で作りました。

10月1日(木)に実施された地区音楽祭(合奏の部)については、次号でお知らせいたします。